第23回

日本腰痛学会

プログラム・抄録集

腰痛治療 一歩前へ

会期：2015年11月14日（土）・15日（日）

会場：JPタワーホール＆カンファレンス

会長：山縣　正庸　独立行政法人労働者健康福祉機構 千葉労災病院　副院長

会 長 挨 拶

第23回日本腰痛学会の開催にあたって

会長　山縣　正庸
（独立行政法人労働者健康福祉機構　千葉労災病院　副院長）

第23回日本腰痛学会を東京駅前JPタワー＆カンファレンスにて、平成27年11月14日（土）、15日（日）の２日間にわたって開催させていただきます。本学会の会長に選任いただきましたことを誠に光栄に存じ、心より御礼申し上げます。開催に当たり、本会を我が国のISSLSにすべく努力したつもりです。

本会のテーマを、「腰痛治療　一歩前へ」といたしました。少しでも腰痛に対しての治療が進歩することが出来ればと願う次第です。腰痛は一般的な病気であり、非常に多くの損失を伴うものです、それは身体的のみならず、心理的にも社会的にも大きな損失を引き起こしています。今回はその腰痛を少しでも軽減すべき方策があるか問うことで議論を深めていただきたいと思います。腰痛の治療についてはその治療法は多くの説が唱えられ現在でも混沌とした状態ですが、本学会では各病態ごとに手術治療も含めた最新の治療法について討議していただきます。また従来の治療法の結果を検証し、得られている知識、情報を整理し、今後の新しい指針が示せればと思います。

今回の学会のテーマ「腰痛治療　一歩前へ」に対して204の応募演題がありました。多くの先生方に応募していただき大変感謝しております。ただし、会場、時間の都合上、190演題を採択させていただきました。演題採択に当たっては査読委員の先生方に採点をお願いいたしましたが、一部は主題として採用させていただきました。会長講演は、腰椎低侵襲手術の検証と題して腰椎に対する最少侵襲手術治療について私見を述べさせていただきます。手術治療の中でもより侵襲の少ない治療として開始された治療法ですが広く普及されて20年が過ぎています。これまでの成果と今後について述べさせていただきます。また治療に関する教育研修講演として３題また産業医研修会１題を企画しております。さらに３つのシンポジウム、つまり、腰痛に対する手術治療の検証、腰痛治療の基本指針、骨粗鬆症と腰痛管理としてそのエキスパートの先生方に議論いただきます。また４つの主題を取り上げ、サルコペニアと腰痛、スポーツ障害としての腰痛、職業性腰痛対策、成人脊柱変形と腰痛と昨今、腰痛に関する大きなテーマとなっている疾患に注目して議論いただきます。またモーニングセミナー１題、ランチョンセミナー６題、イブニングセミナー２題、ハンズオンセミナー３題を企画しました。

今回応募演題を査読させていただき高得点を獲得した10演題をAward候補演題としました。発表者の氏名と演題番号を本抄録集に公表しております。これらの中から、最優秀演題を１題、優秀演題を２題選び表彰する予定です。

開催場所のJPタワー＆カンファレンスは昨年で100周年を迎え、新装された東京駅の目の前です。JR東京駅と連結しており、非常にアクセスの良い会場です。東京駅は新装されてもその歴史を残した形での改装です。ドームを含めた駅舎を訪れ記念撮影をされる方が多くまた駅周辺施設も新装され多くの人でにぎわっています。学会の前後には古くて新しい東京駅周辺を探索してはいかがでしょうか。是非多く先生方に参加していただき、活発な議論で会を盛り上げていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。